

今後の主催事業のご案内

文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)「I.W.A.T.E. 1 in 3 女性リーダー職研究者倍増プラン」

北東北女性研究者 研究・交流フェア2024

日時：2024年9月27日(金) 10:30~16:00
会場：岩手大学復興祈念「銀河ホール」及び「ものづくり協創工房」
申込期限：9月19日(木)まで

[第1部] パネルディスカッション「県内大学男性トップリーダーに聞く、女性リーダー育成の課題」(10:30~11:50)

パネリスト：岩手県立大学理事長 千葉茂樹氏、岩手医科大学副学長 酒井明夫氏、岩手大学 小川智学長
ファシリテーター：いわて女性活躍エグゼクティブアドバイザー 矢島洋子氏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主席研究員・執行役員)
※オンライン参加可

ランチタイム交流会 (12:00~13:30)

地域の女性研究者同士や企業・研究機関等との相互交流・ネットワーク形成の場としてご活用ください。

[第2部] ポスターセッション(13:50~15:30)

女性研究者、女性大学院生、企業・研究機関等による研究活動の発表や企業紹介を通じて、専門分野の垣根を越えた相互交流・ネットワーク形成をする絶好の機会です。

詳しくはHPにも掲載しています。

<https://diversity.iwate-u.ac.jp/events/kitatohoku-wresearchers-exchange2024/>

参加申込は専用フォームから

<https://forms.gle/bjGmBKfJ6jHQfAQn9>



研究交流フェア



申込フォーム



女性活躍・ダイバーシティ採用フェア

今年度後半は下記の学会付設展示会への出展を予定しています。

令和6年度化学系学協会東北大会	日本物理学会第79回年次大会	第65回高圧討論会
日時：2024年9月14日(土)~15日(日)	日時：2024年9月16日(月)~18日(水)	日時：2024年11月13日(水)~15日(金)
会場：秋田大学手形キャンパス	会場：北海道大学札幌キャンパス	会場：いわて県民情報センターアイーナ

女性研究者と語る会&女性研究者紹介パネル展示

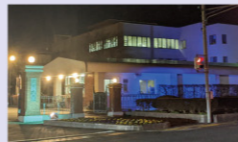
2024年8月6日(火)、岩手大学のオープンキャンパスに際し、ダイバーシティ推進室では、本学のダイバーシティ推進の取組と男女共同参画推進学生委員会(GESCO)の活動を紹介します。会場に展示した本学女性研究者の紹介パネルには、研究内容の紹介の他、高校生へのメッセージも掲載。高校生と本学女性副学長2人が自由に話せる場も設け、20人以上の高校生とその親御さんが参加しました。参加した高校生は時に楽しそうに進路やキャリア等について質問や意見交換をしていました。



会場の様子

岩手大学ブルー・ライトアップ

国連が定めた4月2日の「世界自閉症啓発デー」に合わせて、自閉症をはじめとする発達障害への理解を進めるため、岩手大学では4月2日と3日の夜、正門付近を啓発のシンボルカラーである青い光でライトアップしました。



正門を照らすブルーライト

女性のキャリア形成支援 リカレントプログラム アドバンストセミナー

5月から開催しているベーシックコースが9月に終了し、9月末からは上級編のアドバンストセミナー(全3回)が始まります。初回は9月20日オンラインで開催します。詳しくはHPをご覧ください。 <https://diversity.iwate-u.ac.jp/support/recurrent/>



リカレント

女性リーダー育成プログラム/PI力向上研修

「多様性に欠かせない男性のリーダーシップ」講演会

2024年7月12日(金)岩手大学上田キャンパスにて「多様性に欠かせない男性のリーダーシップ」と題した講演会を開催し、講師に公益財団法人山田進太郎D&I財団COO石倉秀明氏を迎えました。山田進太郎D&I財団は、フリマアプリを運営する「メルカリ」創業者の山田進太郎氏によって「ジェンダー・人権・年齢・宗教等に関わらず誰もが自身の能力を最大限に発揮できる社会の実現へ寄与する」ことを目的として設立された財団です。

講演会で石倉氏は、多様性のある社会を実現するために欠かせない男性のリーダーシップがなぜ必要かについて、財団の活動や自身の人事部長等の経験から気づいたことをお話くださいました。同氏は、日本のジェンダーギャップ指数が146ヶ国中118位であること、男女の賃金格差が諸外国と比較して大きい状況等についてクイズ形式で紹介しながら、日本の男女格差が人事制度等の構造的要因が大きく、その構造や差異を生み出しているのは男性であることを指摘。現在の人事制度は、フルタイムで毎日働ける転勤できる人等を前提としており、子育てや介護等の負担を男性より多く担っている女性はフルタイムで働くことが難しく、キャリアをあきらめざるを得ない現状である一方、フルリモートの会社は女性の応募が多数あり、応募が後を絶たない等、ライフステージに合わせた働き方ができる環境を整えれば女性もキャリアをあきらめられない社会が実現できると話しました。



公益財団法人山田進太郎D&I財団COO石倉秀明氏



会場の様子

また、「男性は透明な下駄を履いている」と表現し、男性であるだけで有利な構造は存在するが男性には普通のことなので気づかない、男性多数の環境では反対意見や違和感を覚える意見が届かない等、マイノリティの人が本来の実力を発揮できない環境になっていることに男性は気づいていないと話しました。男女が同じような土俵に立てるようになるためには公平性(エクイティ)が大切、ジェンダーギャップを「自分ごと」として認識する必要がある、日本のジェンダーギャップ問題は「事実」として存在する、これを次の世代に残しますか?それとも自分は差別していないから関係ないと言いつつ続けますか?せっかくなら「性別」に関係なく誰もがやりたいことをやれる、性別によって不公平な差異がない社会の方が良くないですか?と問いかけました。

聴講者からは、「男性社会を作り上げてきた男性に対しては男性リーダーの声のほうがより響くことが期待できるのではないか、ということに共感した」「マイノリティが孤立しないように数のバランスを考慮することが重要で、些細なことの積み重ねが包括的な環境形成に必須だとわかった」等、多様性を推進する上での理解が広がりました。

講演会の冒頭で本学の副学長はトップメッセージとして「男性にとっての『あたり前』から変わることが問われている。多様性溢れる大学の実現のため男性のリーダーシップをともに発揮していきましょう」と、本学教職員及び一般参加者を含め120名程の聴講者(会場、オンライン、アーカイブ)に呼びかけました。

なお、本学は、2024年6月に、山田進太郎D&I財団と「女子向け理工学系選択支援プログラムに関する連携協定」を締結し、「Girls Meet STEM College」として参画することを表明しています。



事業サイト

女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度

本制度は、女性研究者の在外研究や国際学会発表等に必要の海外渡航費・滞在費等を支援する制度です。ライフイベント等の事情で海外渡航期間を左右されがちな女性研究者の実情に合わせて柔軟に支援を提供することで、教授候補・准教授候補となる女性研究者の研究力向上を図り、ひいては上位職への登用を加速することが目的です。渡航期間や短期・長期渡航者採択数を柔軟に組み合わせた運用となっています。

今回は、本制度を実際に利用した3名の女性研究者に、本制度を利用した感想等を伺いました。

海外派遣制度利用者の声 (1)

渡航先：ポーランド(2023年8月7日～2024年3月27日)

梶 さやか 人文社会科学部 准教授

一般に、国外の教育研究機関で研究に従事することは、自分の所属する機関や居住する国の枠を超えた経験や比較の視点をもたらすものとして意義深いものです。また、西洋史を専門とする私にとっては、研究対象地域のヨーロッパ東部で調査を行い、現地の研究者と交流を持つことは研究遂行上不可欠でもあります。しかし、産前産後休暇および育児休業からの復職後しばらくして、新型コロナウイルスの流行や、ロシアによるウクライナ侵攻の大規模化が起こり、数年間海外調査がままなりません。そのため、今回、本制度とサバティカル研修を利用して、まとまった期間在外研究に従事できたのは大変有意義でした。家族同伴で滞在したので、単身では気づかない社会や文化の様々な面にも出会えました。サバティカルの旅費補助や研究費と合わせて本制度を利用することで、近年の世界的なインフレや円安のなかでも研究費・滞在費の不安なく、研究に専念できました。非常にありがたかったです。



受け入れ先のワルシャワ大学本部棟(カジミェシュ宮殿)

海外派遣制度利用者の声 (2)

渡航先：米国(2023年2月27日～2023年3月30日)
中国(2024年2月26日～2024年3月30日)

朴 香丹 人文社会科学部 准教授

岩手大学実施の[I.W.A.T.E. 1 in 3 女性リーダー職研究者倍増プラン]における「女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度」に令和4年度及び令和5年度に支援をいただき、それぞれアメリカと中国にて在外研究を実施することができました。環境経済学を専門としており、研究は環境保全と経済発展の両立を目指す研究をしています。地球温暖化に代表される環境問題において、人間の経済的な活動は顕著な影響を及ぼしており、迅速な対策は持続可能な社会の実現に不可欠な要素です。しかし、環境配慮型行動に関する国際的な観点からの統計的な分析は少ないのが実情です。そこで、持続可能な発展に貢献するための研究を行っています。さらに、国々における個人の幸福に注目し、心理的ストレスの時間的傾向を調べ2008年から2021年までの世界および国別の時間的傾向を明らかにする研究も行っています。

在外研究は研究者が外国の大学研究機関や外国の研究対象地域に滞在するため、その現地調査や外国の研究機関の研究者との交流または協働研究をより簡単に進めることが可能になります。筆者は調査データを用いて研究することが多いため、外国に訪問せずに現地の調査データを収集し、データから問題を理解し研究をしてきました。しかしながら、在外研究の重要性はデータでは理解できない社会現象やその原因及び解決方法についても現地の研究者と一緒に研究することが可能になり、より深い研究成果に繋がり、対象の社会だけではなく、日本社会にとってもより役に立つ研究成果を生み出すことになると考えられます。

海外派遣制度利用者の声 (3)

渡航先：米国(2023年8月20日～2024年3月31日)

前原 都有子 農学部共同獣医学科 助教

私は2023年の8月から7か月間アメリカのカリフォルニア州にあるStanford MedicineのGross LabでVisiting scholarとして研究に参加しました。海外学会や共同研究等で海外の研究者と話すのとは違い、実際に長期で在外研究をすることで、海外での研究事情や研究室運営などを学ぶことができました。研究を完結させるには短い期間ですが、帰国後も続くコネクションを作るには十分でした。また、私の参加した研究室は、国際色豊かな研究室だったため、アメリカのみならず様々な世界の状況を知ることができたのも大変意義深いと思います。また、本制度は、旅費や滞在費などの資金援助や、私は使用しなかったのですが、必要があれば自身が本学で担当している授業実習等の代替教員の確保についての支援があり、在外研究がしやすい制度だと感じました。

今後の研究生活のためになる大変貴重な経験が出来ました。貴重な海外派遣の機会を与えてくださった、本学の女性研究者グローバル支援海外派遣制度、また長期派遣を受け入れて下さったEric Gross先生にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。



研究室メンバーと(前原先生は左から4番目)



スタンフォード大学

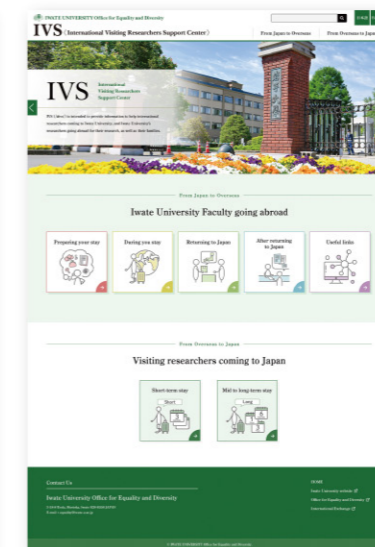
IVS (国際客員研究員サポートセンター) 開設

オンライン上の国際客員研究員サポートセンター(IVS:International Visiting Researchers Support Center)が2024年3月末に開設しました。海外で研究活動をする本学研究者や、本学で研究滞在する海外からの外国人研究者が渡航・来日前後に必要となる情報を包括的にできるだけ分かりやすく提供することが目的で、出発前、滞在中、帰国前・後の各段階に分けて情報をまとめています。

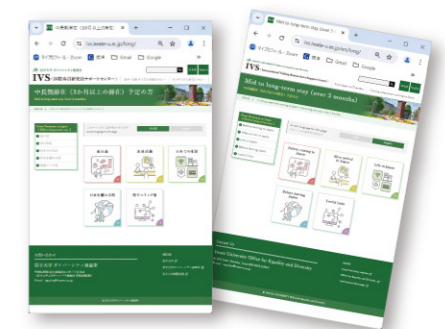
今後、先にご紹介した本学の「女性研究者グローバルキャリア支援海外派遣制度」を活用して海外での研究活動や国際学会発表等を行う本学研究者や、海外からの外国人研究者が、渡航・来日前に情報収集する際に役立つよう、今後も内容を充実させていきます。



IVS日本語トップページ
<https://ivs.iwate-u.ac.jp>



IVS英語トップページ
<https://ivs.iwate-u.ac.jp/en/>



[来日する客員研究員の方へ]の目次ページ
短期・中長期滞在別に日英各ページで情報を提供



[海外へ渡航する岩大教職員の方へ]のページ
日本語を母国語としない本学研究者にも分かりやすいように、日本語ページ(左)に加え、英語ページ(右)でも情報を提供